

# 令和6年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定  
中間評価（9月末実績）  
**年度末確定評価**

施設名 文書館

## I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

## II 目標や方針の設定

- 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組  
の設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

## III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

## I 自己点検・分析

### 1 館の使命・ビジョン

- 1 埼玉に関する歴史的・文化的に価値のある行政文書、古文書、地図などの記録資料を収集し整理を行い、県民共有の財産として保存に努める。
- 2 記録資料の活用を図るために様々な事業を展開し、教育、学術及び文化の発展に寄与する。
- 3 県民の方々が埼玉の歴史に触れ、埼玉への理解を深めることができる記憶装置として、館の運営を進める。

### 2 現状分析と課題の抽出

#### 【現状】

- ◆ 前年度における「利用者数」は、令和2年度比で約3倍増、令和3年度比で約1.5倍増となっている。新型コロナウイルス感染症関連の各種規制が緩和されたことにより、利用者数は回復基調にあるものの、目標値を下回る状況である。
- ◆ 前年度における「メディア掲載件数」は、令和4年度(83件)比でほぼ横ばいではあるものの、目標値を下回る状況である。
- ◆ 前年度における「新規資料公開点数」は、令和4年度(40,700点)比でほぼ横ばいではあるものの、目標値を下回る状況である。

#### 【課題】

- (1) 利用者数全体の増加に向け、類似施設の動向と併せて、時代の変化に即した来館者全体のニーズの把握が必要
- (2) 情報を伝達する対象や内容を明確にした上で効果的なツール(HPやSNSも含む)を活用することなど、広報活動の組織的な取組の検討が必要
- (3) 未整理資料整理計画の見直しを行うとともに、作業時間のより一層の確保を図るための具体的な取組の検討が必要

## II 目標や取組の設定

### 1 中期的な目標や方針及びそれに関する取組の設定

#### 【中期的な目標や方針】

(NO.)	(目標)	(取組期間)
①保存スペース確保へ向けた関係課との協議	}	令和5～9年度
②未整理資料整理計画の策定と着実な実施		
③大学・関係団体へ向けた積極的な情報発信		
④教育支援等に関する多様化するニーズへの対応		
⑤ルーチン業務の定型化・明文化の推進		

#### 【取組】

- ①既存スペースの確認、今後の必要スペースの算定・照会  
既存スペース(文書課文庫を含む)活用に関する協議
- ②未整理資料の全体像把握及び整理計画の策定と随時見直し
- ③全体像(広報計画)の整理、発信情報の整理、情報発信計画の策定
- ④新たなメニューとしてICTを効果的に活用した実施方法の検討・実施
- ⑤各種要領等の見直し及び業務マニュアルの整備

## I-3 チェックリスト(自己点検表)

施設名 文書館

## (1) 全館共通項目

		達成基準	
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取り組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	3	
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	3	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか。	3	
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか。	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	2	現状では一部実施済
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか。	3	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	2	現状では一部実施済
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容		達成度	課題等
情報発信	①	SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	②	資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③	定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④	デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連	①	ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	②	ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③	外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④	地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	2	より一層の具体的な内容を要検討
	⑤	地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	①	収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	②	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③	館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④	学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	②	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	2	より一層の具体的な内容を要検討
	⑤	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥	展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか。	3	
施設の利活用	①	施設利用のための情報を公開しているか	3	
	②	施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	2	より一層の具体的な内容を要検討
	④	施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

## (2)館別独自項目

施設名 文書館

達成基準	
未実施、又は取り組まれていない	1
実施しているが、取り組みが不十分	2
実施、又は達成している	3

項目	チェック内容		達成度	課題等
公文書管理	①	保存年限の見直しについて、適切に働きかけているか	3	
	②	文書閲覧の可否について、適切に見直しを働きかけているか	3	
	③	新規受入文書について、速やかに整理しているか	3	
史料編さん	①	編集刊行計画の策定及び見直しが適切に行われているか	3	
	②	刊行された叢書は、良質な史料の収録、翻刻、編集等が行われているか	3	
	③	今後の刊行へ向けて、資料の調査・選定が計画的に行われているか	3	

Ⅱ－２ 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命3 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	16,000	人	77.2%	第4期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				12,346	人		
2	使命2 展示公開	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	――	人	---	
				――	人		
3	使命3 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	38	人	118.4%	基準値 36    目標参考値 38
				45	人		(年間入館者＋アウトリーチ)÷開館日数
4	使命2・3 情報発信・活用	デジタル情報の利用状況	HPアクセス数	389,900	件	130.9%	基準値 303,564    目標参考値 389,830
				510,320	件		
5	使命2・3 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	110	件	88.2%	基準値 106    目標参考値 106
				97	件		資料貸出＋掲載＋放送等
6	使命2・6 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	――	円	---	
				――	円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値		達成率	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	使命3 資料閲覧	閲覧点数	閲覧室での閲覧資料点数	21,300	点	104.8%	基準値 21,295    目標参考値 21,295
				22,332	点		
2	使命1 資料管理	新規公開 点数	年間の新規資料公開点数	40,900	点	135.2%	基準値 40,818    目標参考値 40,818
				55,317	点		
3	使命2 利用状況	情報提供 サービス	年間レファレンス対応件数	560	件	87.9%	基準値 553    目標参考値 553
				492	件		
4	使命3 利用状況	資料情報 サービス	年間検索システム・アクセス件数	109,400	件	107.1%	基準値 109,381    目標参考値 109,381
				117,139	件		
5	使命2 教育普及	学校利用、市町村・ 県民支援	出前授業、社会体験、教員研修実施回数 市町村支援、県民対象講座等	17	回	123.5%	基準値 17    目標参考値 17
				21	回		
6	使命2 広報・情報 発信	SNSによる 情報発信	X(旧Twitter)のフォロワー数	1,460	人	100.1%	目標参考値 121    目標値 130（新規分
				1,462	人		(R5までの累積値 1,327+R6目標値 130)

※全館共通項目数値目標 過去5年間の実績値のうち最高値と最低値を除いた3か年の実績値の平均を基準値とする。基準値と前年実績値を比較し、原則、数値の高い方を目標参考値とする。目標参考値の1位を切り上げた数値を目標値とする。

※館独自項目数値目標 過去5年間の実績値の最高値と最低値を除いた3か年の実績値の平均値を基準値とする。基準値の1位を切り上げるなどした数値を目標参考値とする。特殊事情がなければ目標参考値を目標値とする。

※H29、H30は施設改修による臨時休館があったため、上記算出基礎に含めていない

### 3 取組の概要

施設名 文書館

- 知事部局及び教育局第1種文書の受入・整理、歴史的資料の評価選別、劣化防止対策
- 歴史的に重要と思われる古文書の調査・収集、目録の刊行、劣化防止対策
- 国・市町村作成地図の新規収集、地図コーナーの整備
- 史料叢書の編集、刊行、続刊の準備
- 閲覧及び調査相談サービス、並びに、収蔵資料の整理・点検の実施
- 目録作成や史料叢書編さんに伴う調査の実施
- 古文書講習会、企画展の開催及び高校生・大学生への学習支援や教員支援、出前授業などの実施
- 新規資料データの追加、安定的な運営
- 施設設備の適正な維持管理、ホームページやX(旧ツイッター)などによる積極的な情報発信
- 市町村に対する個別の支援、ボランティアの育成及び活動支援、実習生の受入れ

## Ⅲ 評価

## 1 自己評価総括

## (1) 評価

- 「利用者数」(総数)は、目標値には達していないものの、前年度(10,533人)比では約17%の増加となっており、回復基調にあると思われる。
- 「HPアクセス数」は、目標値を大きく超えた(約30%の増加)。HPによる情報発信が利用者のニーズに的確に応えることができているものと考えられる。
- 「メディア掲載件数」は、目標値には達していないものの、前年度(85件)比では約14%の増加となっており、HP等による情報発信の効果が少しずつ表れてきているものと考えられる。
- 「閲覧室での閲覧資料点数」は、目標値に達することができた。なお、達成値は、前年度(22,574点)と比較してほぼ横ばいとなっている。
- 「年間の新規資料公開点数」は、目標値を大きく超えた(約35%の増加)。計画的な整理を着実に実施したことによるものと考えられる。
- 「年間レファレンス対応件数」は、目標値には達していないものの、HP(検索システムも含む)による情報発信が、代替手段として利用者のニーズに応えているものと考えられる。なお、主に閲覧室を利用した一般県民の方々を対象として実施したアンケートの結果では、来館目的への満足度は100%と高い評価が得られた。
- 「年間検索システム・アクセス件数」は、目標値に達することができた。利用者のニーズに対し、システムの活用が的確に応えることができているものと考えられる。
- 「出前授業、社会体験等」は、目標値に達することができた。また、講座等(展示も含む)において実施したアンケートの結果でも、参加者等からの満足度は95.5%と高い評価が得られた。
- 「X(旧Twitter)のフォロワー数」は、目標値に達することができた。情報発信の効果が少しずつ表れてきているものと考えられる。

## (2) 課題と対応の方向

- 新型コロナウイルス感染症関連の各種規制の緩和(令和5年度)以降、「利用者数」は回復基調にあるものの、目標値を下回る状況にある。そのため、引き続き目標値の達成に向けて、類似施設の動向も注視しながら、時代の変化に即した来館者のニーズを把握するよう努める。
- 「メディア掲載件数」は、前年度の実績と比較すると10%以上増加してはいるものの、目標値を下回る状況にある。そのため、情報を伝達する効果的なツールの活用も検討しながら、館全体で組織的な広報活動に取り組んでいくよう努める。
- 「年間レファレンス対応件数」は、目標値を下回る状況にある。検索システムなど代替手段の定着がその要因の一つと考えられるが、この傾向が一時的なものかどうかを見極めながら、利用者のニーズを適切に反映した目標値の設定を検討したい。



## 2 外部評価委員等によるコメント

- ◇ 「Ⅰ－3チェックリスト(自己点検表)」では、「収蔵資料のデジタル・アーカイブ化」・「地域イベントへの関わり」・「ユニバーサルデザイン化」・「施設の利活用」といった項目について、達成水準が「2」となっているが、これらの項目の達成水準が「3」になるよう一層の努力を期待したい。
- ◇ 館で作成した史料叢書については、もっと県民の方が買いやすいように、販売の方法を工夫することが必要ではないかと思う。
- ◇ 今年は、昭和100年・戦後80年の節目の年である。「新編埼玉県史」の編さんを終えてから大分時間が経ったので、例えば「戦後埼玉県史」などの編さんを考える時期に来ているのではないかと思う。
- ◇ 県におけるペーパーレス化の流れの中で、資料活用や史料編さんなどにおいても、より効果的な方法を予め検討しておくことが望ましいと考える。